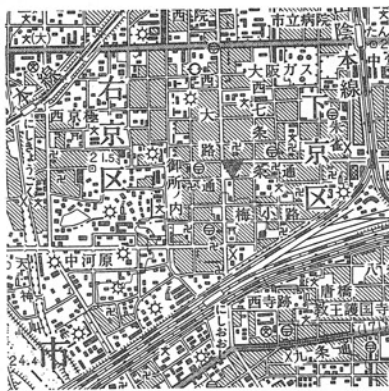




(京都西南部)

京西市外町に推定される場所である。西市の調査では、一九七七年地下共同埋設溝の建設に伴う発掘調査が実施され、木簡の出土が報告されている。今回の調査は、マンション建設に伴う発掘調査であり、調査区は、基礎掘削の範囲に限られた。調査地の層序は一〇層に大別でき、古墳時代から江

京都・平安京西市外町

- 1 所在地 京都市下京区西七条南西野町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)一月～一九八八年二月
- 3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 菅田 薫
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査地は、平安京右京八条二坊八町のほぼ中央に位置し、平安京西市外町に推定される場所である。西市の調査では、一九七七年

戸時代にわたって遺構・遺物を確認した。このうち、第七層から第九層までが平安時代の整地層で、第七層からは一〇世紀前半、第八・九層からは、九世紀前半の遺物が出土した。また、板・杭などで粗く護岸した南北方向の溝と、この溝に直角に交わる東西方向の溝を検出し、西市外町の区画溝と推定される。

木簡は四点で、第八層より、多量の土師器・緑釉陶器などの土器類及び多数の木製品とともに出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「<油一升御明料」

91×18×3 033

(2) 「□□□□」

(66)×20×3 019

(3) 「坂上殿□取」 [東カ]

(題籤軸)

・「□□十四年」

(78)×35×5 061

(4) 「□職」

・「□鳥鳥□職職式式」
[鳥カ]

・「□□成成成□□」

304×35×5 065

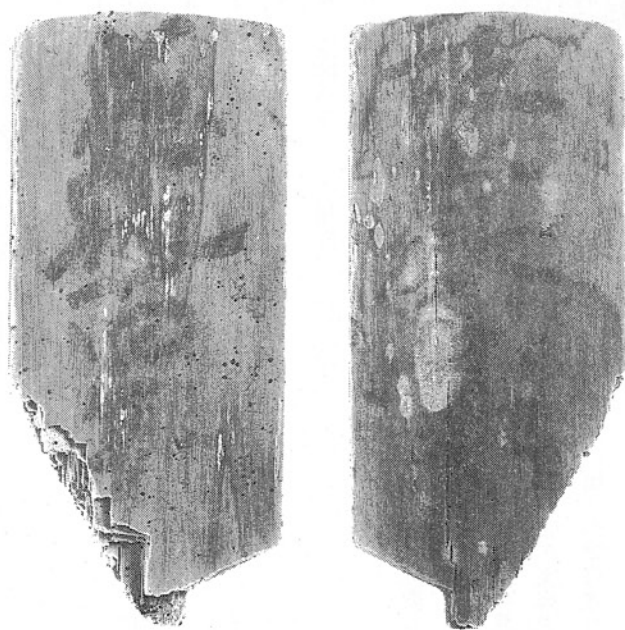
(3)は題籤軸である。裏の「十四年」の上は年号かどうか判然としない。(4)の表面には黒漆が塗布されている。笏あるいは扇の未成品などの可能性が考えられる。

9 関係文献

京都市文化観光局・勅京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 昭和六三年度』(一九八九年)

木簡学会『木簡研究』創刊号(一九七九年)

(菅田 薫)



木簡(3)

木簡研究 第一号

巻頭言

狩野 久

一九八八年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京二条二坊十一・十四坪坪境小路跡 平城京左京二条四坊二坪 東大寺大仏殿廻廊西地区 藤原宮跡 藤原京跡 長岡宮・京跡 長岡京跡 嵯峨院跡(史跡大覚寺御所跡) 大坂城跡 東郷遺跡 吉田南遺跡 小丸遺跡 姫路城跡(武家屋敷跡) 姫路城跡(東部中濠) 玉手遺跡 袴狭遺跡 山の神遺跡 池ヶ谷遺跡 瀬名遺跡 居村B遺跡 今小路西遺跡(福祉センター用地) 中里遺跡 中江田本郷遺跡 高溝遺跡 狐塚遺跡 仙台城二の丸跡 熊野田遺跡 一乗谷朝倉氏遺跡 三小牛ハバ遺跡 能登国分寺跡 発久遺跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡(GD01地点) 紺屋町遺跡 下川津遺跡

一九七七年以前の木簡(一一)

出雲国庁跡

中国出土簡牘的保护研究

中国出土木・竹簡の保存科学的研究(抄訳)

胡 繼高 訳・佐川正敏

木箱と文書

所謂『長屋王家木簡』の再検討

有韻尾字による固有名詞の表記

小池伸彦 大山誠一 犬飼 隆

彙報

頒価 三八〇〇円 千四〇〇円